

福島原発災害からの生活・地域の協働再生の途を探る

主催 農村計画学会科研広田研究グループ

農村計画学会大震災復興特別委員会

後援 日本大学生物資源科学部戦略的基盤形成支援事業

日時：2015年3月1日（日）12：30～17：40

場所：福島県青少年

会館大研修室（収容人数200名程度）

参加者及び参加費：市民、学生、研究者、誰でも参加可能

参加費無料

東日本大震災から4年が経過しようとしている。東京電力福島第一原発事故で避難生活を強いられている国民は福島県民でも14万人を超えている。帰還希望者、移住希望者、二地域居住等、避難民の生活再建意向は多様である。一方、行政は除染による帰還促進政策をとる傾向が強いのに対して、住民達は自分達の生活・生業再建・コミュニティ再建意向がより強くなっている。放射能汚染以前の当たり前の、共同性のある農的くらしの再建を希求している。

農村計画学会会員による支援研究の報告と課題提示、福島大学の関係者達による農的力の協働支援活動、コミュニティ再生についての展望の報告とあわせて、避難者達自身での協働的再生行動、支援者と被災者の協働による再生プロジェクト、農の力を生かした再生プロジェクト、再生可能エネルギーによる協働再生の事例を交えて、生活・地域再生のより具体性のある再生の将来像を展望したい。

支援研究に関するポスターセッションも同時に開催するので、積極的な参加をお願いします。



司会進行 藤沢直樹（特別委員会幹事、日本大学）

<開会あいさつ> 12:30～12:40

広田純一（農村計画学会会長・岩手大学・研究会代表）

<主旨説明> 12:40～12:50

糸長浩司（復興特別委員長）

<第1部>被害実態と再建・再生の途

- | | |
|--------------------------|------------|
| 1. 原子力災害におけるコミュニティ再生にむけて | 丹波史紀（福島大学） |
| 2. 川俣町山木屋の大地放射能汚染と復興 | 近藤昭彦（千葉大学） |
| 3. 飯舘村民の生活再建・帰村・二地域居住の葛藤 | 糸長浩司（日本大学） |

休憩 14:05～14:15

<第2部>主体と手法の新たな協働再生の展開

- | | |
|------------------------------------|----------------------|
| 4. 婦人達の農的力で協働再生の途を拓く（仮） | |
| 大黒太郎（かーちゃんの力・プロジェクト協議会監事、福島大学） | |
| 5. 避難先での農的力によるコミュニティ再生 | 菅野哲（飯舘村民、巧塾） |
| 6. 専門家の支援によるメタン発酵エネルギーによる地域再生 | |
| 大沼豊（再生可能エネルギー協会 霊山プロジェクト現地代表、伊達市民） | |
| 7. 市民発電事業 | 佐藤 彌右衛門（会津電力株式会社 社長） |

休憩及びポスターセッション 15:55～16:25

<第3部>ディスカッション

16:25～17:20

コーディネーター 服部俊宏（明治大学）

閉会挨拶

17:20～17:30

山路永司（東京大学、前農村計画学会会長）